マルワリードⅡ、最後の難関を突破
4.8 km地点を超えて送水
2018 年 5 月 3 日
4.8 km地点に造成中の調節池Ⅳを通過する用水路の水

（解説）

今回の共同事業の中で、力を入れてきたのが洪水対策でした。PMS はこれまでも各地域で護岸工事を手がけてきましたが、最も危惧されたのがこの地域でした。2010 年 8 月の「歴史的大洪水」では、カチャラ村下流 1500m 地点から主流が直進して下り、コーティ、タラーン村の半分が壊滅しました。加えて 2015 年夏には 4800m 地点で分流が発生、クナール河の水量を二分、ベラ村に大被害を与えたうえ、下流のミラーン堰が取水困難に陥りました。後者については、2016 年 2 月に PMS が約 200m（最終的に 300m）をしめきって堤防を築き、それ以上の被害を食い止めていたものの、工事は応急措置に近いもので、いずれは再決壊して大被害を出すと想定、工事を重ねてきました。

しかし、作業地が長大で膨大な物量を要した上、他の緊急工事もあったのでまともな施工管理ができず、なかなか計画通りに進められませんでした。また同部は主幹水路の最終地点に当り、灌漑路建設の上でも重要地点ですが、堤防構造との兼ね合いから池の設計で足踏みしていました。増水期で水位がどんどん上がってきます。さすがに計画の甘さと不備を痛感しました。これを挽回すべく「最後の重要地点」と位置づけ、全ての人員と機械力を集中、短期間に石材を集積し、一挙に主要工事を完了しました。

今まで安全だったのはただ天祐によります。しめきり提造成時（2016 年 2 月）の河床は砂利堆積で高くなっていましたが、堤防の水制群によって洗堀され、急速な河床低下が起きて夏の水位上昇を抑えていました。また大粒径の砂利が旧分流河床から採取でき、石材輸送が至近距離となったことも大きく働きました。5 月 3 日、送水して確認、事情を知る職員は胸をなでおろしました。ベラ村はこれによって、断食月明け（6 月中旬）までに確実に全域灌漑の恩恵に浴します。4 月 11 日の工事開始から 3 週間である。

なお、遮蔽物のない現場は酷暑であり、断食月も近づいています。作業員の疲労が目立ち始めていたので、先ず工事先端（ベラ延長路 350m 地点）まで送水を決定、調節池の造成を優先して進めてきました。みな水を得て活気づいています。小さな工事はたくさん残ってまだ時間がかかりますが、もはや楽観的見通しを伝えてよい状態だと思います。どうもありがとうございました。

ブディアライ（ヤールモハマドの組)、ザミールグルとカンレイ組（コンクリート作業）を除けば、全ての作業員はこの地域出身者で、この 1 年半の間にずいぶん習熟してきた。石組み、蛇篭設置、コンクリートの扱い、鉄筋作業、ダンプカーの誘導、主な重機の役割、石材の選び方、レベルのとり方などなど、たくさんのことを学んでいる。訓練計画の陰の本領はこちらで、彼らがやがて「地域の技術力」の底力となる。2018 年 5 月 3 日

調節池Ⅳの作業風景。仕事がきれいで速い。炎天下を黙々と働く。2018 年 5 月 2 日

分流発生地点の強化堤防と調節池Ⅳの造成。堤防 4.65-4.95 ㎞約 300m がしめきり提に相当し、この部の堤防は幅 60m 以上、高さ冬の低水位から約 4m をとり、樹林帯を置く。石材は河原の砂利を使用するが量が膨大、ひたすら積む。構造の上では 1500m 地点と同様でも分流の規模が大きく、青息吐息。2018 年 4 月 26 日

同上。工事先端はベラ村まで 150m に迫る。旧分流の河床が砂利採取場になっていて、悠々と輸送。2018 年 5 月 2 日

2017 年 9 月 27 日、しめきり提建設から 1 年 6 か月後の状態。まだ堤防の厚みもなく、高さも不十分で手が抜ける状態ではなかった。

上記写真はまだマシで、同部しめきり直後（2016 年 2 月 25 日）は恐ろしい光景だった。タラーン、ベラは危機一髪。この 2 年間、夏が近づく度に慌てて工事を繰り返しながら、現在の状態に落ち着いてきていた。幸いにして免れ、ただ感謝。

同分流発生地点（4.8 km地点）を近くの丘から見る。干上がった河床、広がる黄金色の小麦畑。2018 年 4 月 24 日